

2年生0学期、3年生0学期

1年生も2年生も「先輩と語る会」では、先輩方の話をしっかり聞いて、たくさんメモをとっていましたね。このような方法が良かったとか、こんな準備が必要だったなど、いろいろなアドバイスをしてくれましたね。評定平均値の話もされていました。先輩方も皆さんと話をするために、しっかり準備をしていましたよ。参考になった点はすぐに実行に移してください。皆さんもいよいよ、2年生、3年生になります。あっという間に本番を迎えます。後悔しないために、今何をすべきかよく考えて行動してください。

今年の多くの卒業生は、最後まで科目を絞らずに、5教科に全力で取り組んでいました。合格した後も、いろいろな教科の勉強を続けていました。その頑張りが素晴らしい結果につながっていると思います。前期日程で不合格になっても、中期日程・後期日程まで粘り強くチャレンジし、合格を勝ち取った先輩方の姿勢は、素晴らしいお手本になると思います。自分の夢を叶えたいなら、勉強するしかありません。ライバルは全国にいます。春休みは『苦手科目の克服』に取り組みましょう。苦手科目が1つでもあると、いろいろな場面で不利になります。「継続は力なり」です。希望進路達成に向けて、1日1日を大切に過ごしてください。

入試について

入試の形態も複雑になっています。よく読んで、参考にしてください。

○共通テストとは？

- ・1月13日以降の最初の土・日曜の2日間に全国で一斉に実施される、日本最大規模の試験。
- ・国公立大学の一般選抜受験者は、原則共通テストを受験しなければならない。
- ・多くの私立大学でも共通テストの成績を利用する「共通テスト利用方式」を設定している。
- ・マーク式で、基本的な内容から思考力・判断力を問う問題まで幅広く出題される。
- ・出題科目は、国語・地歴・公民・数学・理科・外国語の6教科30科目で構成されている。
- ・志望大学が指定する教科・科目を選択して受験することになる。
- ・本校の生徒で4年制大学を志望している人は、原則全員受験する。

○2次試験とは？

- ・国公立大学の一般選抜は、1次試験的役割を果たす「共通テスト」の得点と、大学別に実施される「2次試験（個別学力試験）」の得点の合計で合否を判断するケースが一般的。
- ・共通テストの自己採点を行った後、志望する大学に願書を提出する。
- ・出願期間は、共通テストの約1週間後からスタートし、約10日間。
- ・「前期日程」「中期日程（一部の公立大学のみ）」「後期日程」の最大3校の受験が可能になり、一度に出願する。
- ・前期日程の入試科目は、一般的には文系学部で「外国語、数学、国語、地歴・公民」から2～3教科、理系学部では「外国語、数学、理科」から2～3教科が課される。
- ・後期日程では前期日程に比べ教科数を1～2教科に減らすケースや、総合問題、小論文や面接などを課すところも多くなっている。
- ・主体性等を評価するために「調査書」や「志願者本人が記載する書類」などを活用する動きが活発。
- ・一般選抜では、全体の約1割が英語資格・検定試験を活用している。

○私立大学の入試

- ・私立大学の入試も、一般選抜と学校推薦型選抜、総合型選抜に分けられる。
- ・一般選抜では、国公立大学のように統一した入試日程は設定されていない。
- ・各大学が自由に入試日程、選抜方法を設定している。
- ・試験日が重ならなければ何校でも受験できる。
- ・一般方式は主に2月初旬～中旬にかけて行われる。
- ・入試科目は大学によりさまざま、文系学部は英語・国語・地歴公民または数学から3教科、理系学部は英語・数学・理科の3教科を課すパターンが一般的である。
- ・共通テストの成績を活用する「共通テスト利用方式」も多くの大学で導入されている。
- ・2月下旬～3月にかけて再度入試を実施する大学も多くある。
- ・一般選抜では、全体の3割を超える大学が英語資格・検定試験を活用している。

○学校推薦型選抜とは？

- ・国公立大学では、全体の約9割以上の大学が実施している。
- ・私立大学では、入学者比率が40%以上を占めている。
- ・出願条件が設定されている場合もあり、誰もが出願できる入試というわけではない。
- ・「公募制」と「指定校制」の2タイプに分かれる。
- ・「公募制」は大学の出願条件をクリアし、推薦会議を経て校長先生の推薦を得られれば、受験できる。
- ・「指定校制」は大学が指定した高校の生徒を対象とする選抜で、私立大学が中心。
- ・多くの大学では「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」専願制の入試。
- ・共通テストを課す場合と課さない場合の2タイプに大別され、入試日程も大きく異なる。
- ・小論文など受験者自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法のほか、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績、共通テストなど、様々な形態で評価される。
- ・私立大学では、小論文や適性検査、面接、基礎学力試験、調査書等の書類審査を様々な組み合わせで選考される。

○総合型選抜とは？

- ・大学が求める人物像（アドミッション・ポリシー）と受験生との適性などを測りながら合否を判定する入試制度である。
- ・「高い学習意欲」「学びへの明確な目的意識」が選抜基準として重んじられている。
- ・出願時に受験生自身が作成して提出する書類が多い。
- ・国公立大学では、出願9～10月、合格発表11月～12月上旬といった入試日程が一般的である。
- ・選考方法は1次：書類審査、2次：面接（プレゼンテーションも含む）・小論文といった選抜型が一般的だが、共通テストを含む教科・科目に係るテストや口頭試問など、学力を確認する試験も実施される。
- ・事前準備が他の選抜以上に多いため、早い時期からの対策が必要になる。
- ・私立大学では「対話型」も多い。エントリー後、事前面談、予備面談なども含めて複数回面談を行い、出願許可されると合格内定を得ることができる。大学・学部への適性や学ぶ意欲がより一層重視される。

学校推薦型・総合型選抜を活用して大学に進学したいと考えている人も、公務員や就職を検討している人も、3年生の1学期中に、どこに挑戦するかを決めなければなりません。公務員試験に合格した先輩方も、早くから放課後や週末を活用して、専門学校の公務員対策講座に参加し、たくさん問題を解いていました。準備を始めるのは「早ければ早いほど良い」ということです。春休みに「自分が進みたい道について」自分に問いかけると共に、保護者の方と話す機会を必ず持つてください。